

体液 - 体腔

(胸水、腹水)



提出が必要な主な構成要素

- 染色済みの直接（未濃縮）調製
- 染色済みの沈渣（濃縮）調製

提出が強く推奨される

- 総タンパクの測定値
- 細胞数

体液サンプルの採取

- 体液サンプルは、速やかにEDTAチューブに入れるようにしてください。体液が十分に残っている場合、赤いキャップのチューブにその一部を分注します
- EDTAチューブ内の体液は、スライド調製に使用します。赤いキャップのチューブ内の体液は、追加の検査で使用する場合があります

総タンパク測定値

- 屈折計を使用する
- 体液の上清を測定に使用することが最善ですが、体液が透明であれば、遠心分離されていない体液を測定に使用することができます
- EDTAはタンパク質の過剰評価を引き起こすことがあります。赤いキャップのチューブが最善です

細胞数

- 体液に微粒子物質が含まれていない場合は、CBCアナライザーを用いて体液の白血球数を求めることができます
- 体液の分析に関しては、アナライザーメーカーの指示を参照してください

直接（未濃縮）調製

1. 鉛筆でスライドに直接ラベル付けを行います。
2. EDTAチューブの体液を数回穏やかに転倒混和し、よく混合されるようにします。
3. スライドのラベル端の近くに体液を滴下し、血液塗抹法を用いて体液を展開し、フェザードエッジを確保します。
4. スライドを迅速に乾燥させます（ヘアドライヤーの冷風を使用することができます）。熱を加えないでください。
5. スライドを染色し、乾燥させます。
6. 提出前にイメージジョンオイルを滴下し、カバーガラスを付けます。

沈渣（濃縮）調製

1. 沈渣用のスライドを鉛筆でラベル付けします。
2. 十分に混合された体液の一部を遠心分離用に別のチューブに分注します。
3. 体液を遠心分離して上清をデカントし、少量の残った液体に沈殿物を穏やかに再懸濁させます（尿沈渣の調製と同様）。
4. スライドのラベル端近くに沈渣を滴下し、血液塗抹法を用いて体液を展開し、フェザードエッジを確保します。

直接調製のステップ4~6を行います

提出

どのスライドが直接調製で、どのスライドが沈渣調製なのかをわかるようにしておきます。

Abdominal Fluid Not Centrifuged



Abdominal Fluid Centrifuged Sediment



スキャンする際

- スライドのサンプル面がスキャナーレンズ方向に上を向いていることを確認します
- スライドロックがかかっていることを確認します
- スキャナーの移動を妨げるものが周囲にないことを確認します（作動中の遠心分離機を含む）